

建築分野の中長期的なあり方の 検討の方向性(懇談会とりまとめ)

※第7回（R7.9.16）資料に委員等ご意見を踏まえて赤字加筆

建築分野の中長期的なあり方の検討について(検討趣旨)

時代認識・背景

- 法制度整備により、安全の確保、質の向上等を推進してきているが、基礎的な技術基準整備の継続や新技術等への対応等のアップデートが期待されている。
- スtock活用社会の到来と担い手不足により、技術者の持続的な確保及び適切な技術伝承と、技術者・専門家以外の建築物を利活用する者も建築分野の新たな担い手の主体になることが求められる。
- 気候変動等による災害激甚化やサーキュラーエコノミー等への対応も急務。

ビジョン策定の目的

- これからの時代に即して、より良い社会資本としての建築物・市街地を構築するため、多様な関係者ごとの目線を踏まえ建築分野の方向性を示すことを目的とする。
- こうした建築分野の方向性の全体像を相互に理解しながら、産官学の関係者が以下の3つの視点から考え、それぞれの役割を果たすことが求められる。
 - ① 投資の予見性
 - ② 人材確保・育成の計画性
 - ③ 技術開発の方向性

ビジョン検討の柱

- 大きく以下の3点が考えられる。
 - ① 建築ストック(モノ)
 - ② 担い手(ヒト)
 - ③ 建築を支える環境・仕組み(社会)
- これらに係る各論点について、留意点・検討の方向性を踏まえ、議論が進められることが望まれる。

懇談会における議論の概要

第2回・第3回：既存建築ストックの活用／担い手の確保・育成

- ストックを使いこなすことを前提とした制度体系の構築(柔軟な適法化のチェック)
- 所有者・利用者等がストックの利活用に必要な知識を習得できる場の構築
- ストックの利活用を支える技術者の確保・育成及び多様な専門家の連携
- 専門家以外の建築に関わる関係者の「参加」(新たな担い手)
- 新たな担い手による「参加」を担保する仕組み
- 建築に関わる業務の徹底的な効率化と適切な伝承

第4回・第5回：新技術・新材料／地球環境問題／建築物の質への対応

- 新築とストック、建物規模、用途によって求められる質や性能は異なる
- 利活用段階を意識した発注や建築士等の専門家の関与のあり方
- 規制・誘導と設計の自由度のバランス
- 技術開発市場における多様な専門分野に係る横断的な知識に対するニーズ
- 既存技術の延長ではない新技術の台頭に対応した基準・制度のあり方
- 基礎的な技術の維持・拡大と伝承

第6回：まちづくり・社会との接続

- 経済規模、空き家数、高齢化等の人口動態、担い手の数等による状況を踏まえた多様な市街地像の検討
- 単なる建物整備だけでなく、地域の暮らしや商業、集客コンテンツを含む総合的で継続性を意識したまちづくりのあり方
- 建築物の情報化が進展した社会におけるデータ更新、責任の所在、オープンデータ化のあり方

建築分野の中長期的なビジョンの枠組み(イメージ)

<ビジョンが目指す展望>

例) 社会的資産・経済的資本としての建築・市街地のあり方



<建築物・市街地（モノ）のあり方>

スクラップ&ビルドから適切に「使いこなす」時代に向けて
個人・企業の経済活動を支える良質な社会資本の構築

例)

既存建築ストックの活用

適切な維持管理

建築物に求める性能のあり方

地球環境問題への対応

...

<建築を支える担い手（ヒト）>

従来の建築生産のみならず利活用に関わる新たな担い手を含む建築物のライフサイクル全体を見通した体制の確保

例)

建築行政の体制確保

建築生産の体制確保

建築を活用する体制確保

建築リテラシー

...

<建築を支える環境・仕組み（社会）>

基礎的な技術の適切な伝承と新技術等の円滑な導入のための柔軟な基盤の構築

例)

既存建築物の評価

研究開発の促進

...